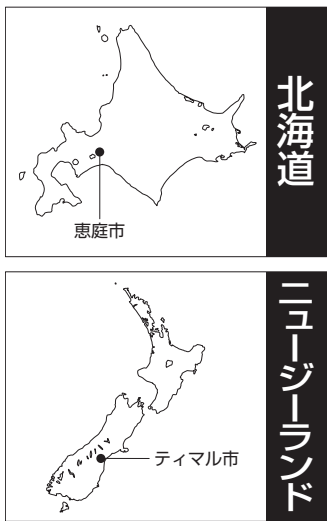


姉妹交流ライブラリー 姉妹提携への道

(財)自治体国際化協会交流情報部交流親善課

近年、地方自治体の厳しい財政状況が続ぎ、新規の姉妹都市提携が少なくなっています。が、そうした中で、新たに姉妹提携締結を行った自治体が、どのような過程で締結に至ったかの経緯等を紹介し、今後、姉妹提携を進める他の自治体の参考にしていただければと思います。

今回は、二〇〇八年二月にニュージーランドのティマルと姉妹提携を行った北海道恵庭市の事例を御紹介いたします。



北海道 ニュージーランド

〇一年に恵庭商工会議所が設立二〇周年を

迎えるにあたり、まちの国際化と地域経済の活性化を図ることを目的に国際交流の交流先としてニュージーランドを調査したことに始まります。同国を交流先として選定した理由は、本市が目指している「花のまちづくり」の国際的な先進地であること、英語圏であること、治安が良いこと等の条件を満たしていたためです。同時に経済交流の可能性についても現地の商工会議所と協議しつつ調査を行いました。最終的に、訪問した四市からティマルを交流先として決定しました。決定後は、ティマル市長を招聘し、恵庭商工会議所主催の経済交流に関するシンポジウムの開催、産業交流調査団

の派遣等により交流促進に努めました。〇三年には両市の商工会議所が国際友好商工会議所を締結するとともに、青少年の国際交流派遣事業を開始しました。以降毎年三名の中高生を派遣、〇四年からはティマルの学生も受け入れ始めました。

〇六年には本市の「道と川の駅」内に、ティマルの物産の販売や紹介を行う「ティマルショップ」を開設しました。

このように民間主導での交流が着

実に進む中、市においても、〇六年十二月に、市の国際化推進の基本的な考え方を示す「恵庭市国際化の指針」を策定し、市の施策方針としてティマルとの交流の推進を明確に位置づけ、いよいよ市としても、姉妹都市締結を視野に入れた取組を開始しました。

また、ティマル側においても、〇七年四月、ティマル市内に恵庭市を紹介するアンテナショップ「えにわショップ」を開設するなど、両市双方で相互理解、関係強化のための取組が進み、姉妹都市締結の機運と環境が整えられていきました。

こうした中、〇七年五月には恵庭商工会議所、恵庭ニュージーランド協会、恵庭市青少年育成市民の会、恵庭ライオンズクラ



↑ティマルショップ

ブの四団体から「交流活動の機運の高まり」や「経済交流・市民交流の下支え」を期待する「姉妹都市締結要望書」が市及び市議会に提出され、それを受けて姉妹都市締結への動きが一気に加速しました。

翌月の六月議会で議会承認を受け、〇八年二月二三日、市長を団長として訪問団がティマルを訪問し、晴れて姉妹都市を締結しました。

締結までの問題・課題

姉妹提携の締結に関しては、〇八年に策定した国際化の指針に基づくものであり、議会からは、特段の異論は出されませんでした。一方、締結後に何を交流するのか、具体的などころをしっかりと詰めておくようにとの指示を受けました。

そのため、市では、姉妹都市締結に向け、提携書の作成・調整を進めつつ、庁内会議の開催や関係団体からの意見聴取を通じて、様々な交流事業のメニュー化を図り、ティマル側に対しそれらの提案を行いました。しかし、ティマル側では、専任の国際交流担当者配置されていないこともあり、具体的な調整となるとなかなか進みませんでした。このような状況は姉妹提携締結後の現在も続いており、大きな課題となっています。

姉妹都市提携自体は、その時の機運で比較的容易に合意に至ることはありますが、提携書や新たな交流事業の具体化等、事務

的な調整となると非常に難しく、締結にあたっては、お互いの事務レベルでの情報収集、情報交換、連絡調整機能を十分確保しておくことが、その後の交流を効果的に進めるためにも重要なことと思われれます。

締結後の交流分野・課題

姉妹都市交流は本来メリットを論ずるものではありませんが、実際に交流を通じて互いに得るものがあれば、更に良い方向で交流が長続きするものと思われれます。

その一つの要素に民間経済交流があげられます。これにより姉妹都市間で「人・もの・金」が行き来し、交流をより一層活性化させることにつながるものと思われれます。

その一方で、国際交流の推進には高邁な「理念」があります。交流を通じて互いの歴史や文化、価値観の違いを越えて相互理解を深め、世界の平和と繁栄に寄与するといふものです。これらは、利害関係を越えた次元にあるものですので、行政交流の中心位置づけ推進して行くことが広く求められているものと考えます。

こうした考えに立ち、市では、今後従来からの恵庭商工会議所を中心とした民間経済交流をベースとしつつ、市民のための観光ツアー事業の開発・提供に加え、行政交流としての教育、文化・スポーツ等の分野における取組を交流分野のテーマとして掲げ取り組んでいくこととしております。

おわりに

国際姉妹都市締結を機に、市民の意識は着実に変化しております。北海道洞爺湖サミットの際、外国の要人をあたたかく迎えようという機運が高まったこともあり、学校でも外国人を積極的に受入れ、教育の中に生かしているという意識が醸成されました。

〇九年一〇月には、突然、ティマルから一般市民の方が来られて、気軽に本市の豊かな自然を満喫され、さらには、ホームステイ先の御家族との交流も深められ、大変満足して帰っていかれました。

今、確かに財政状況の悪化等により、姉妹都市交流も厳しい状況になって来ておりますが、こうした「肩の凝らない付き合い」方こそが、姉妹都市交流の原点であり目指すべき姿の一つと言えるかも知れません。

(記述：恵庭市企画財政部企画調整課
国際交流担当主幹 津川 孝)

参考情報(恵庭市)

人口(〇九年九月)・・・六万八六〇八人
面積・・・二九四・八七km²
担当課・・・企画調整課
連絡先・・・0123-333-3131
HP・・・http://www.city.aniwa.hokkaido.jp
姉妹自治体名・・・Nニティマル
人口 約四万五〇〇〇人
面積 二六〇二km²